

第1章 戦場

中国での戦い②

大陸における戦い

武田一郎さんのお話から

○天津 表紙裏地図

昭和十二年（一九三七年）七月に召集された私は、旭川で入隊し、北京のそばの天津とい
うところに行きました。軍務は工兵と一緒でした。本当に重労働でした。鉄道の橋を架けたり、
敵が破壊したレールを直したり、そういう仕事ばかりでした。軍隊の移動は汽車で行います。
そうしなければ、兵隊はみんな歩かなければならないのです。ですから、鉄道連隊というのは、
建設部隊の中でも貢献する部隊だったと思います。

元気のいい兵隊がいました。「おまえ、一回鉄砲の弾に当たってみろ。弾はおっかないぞ」
と言うんです。冗談ではありません。弾に当たったら、おっかないどころではありません。
下手に頭に当たったら一発で死んでしまうし、腕をやられて貫通したら、だめになってしま
います。

○貫通（鉄砲の弾が腕
を）貫いて通ること。

○コーリヤン イネ科の
一年草。中国東北部など
で多く栽培されるモロコ
シの一種。

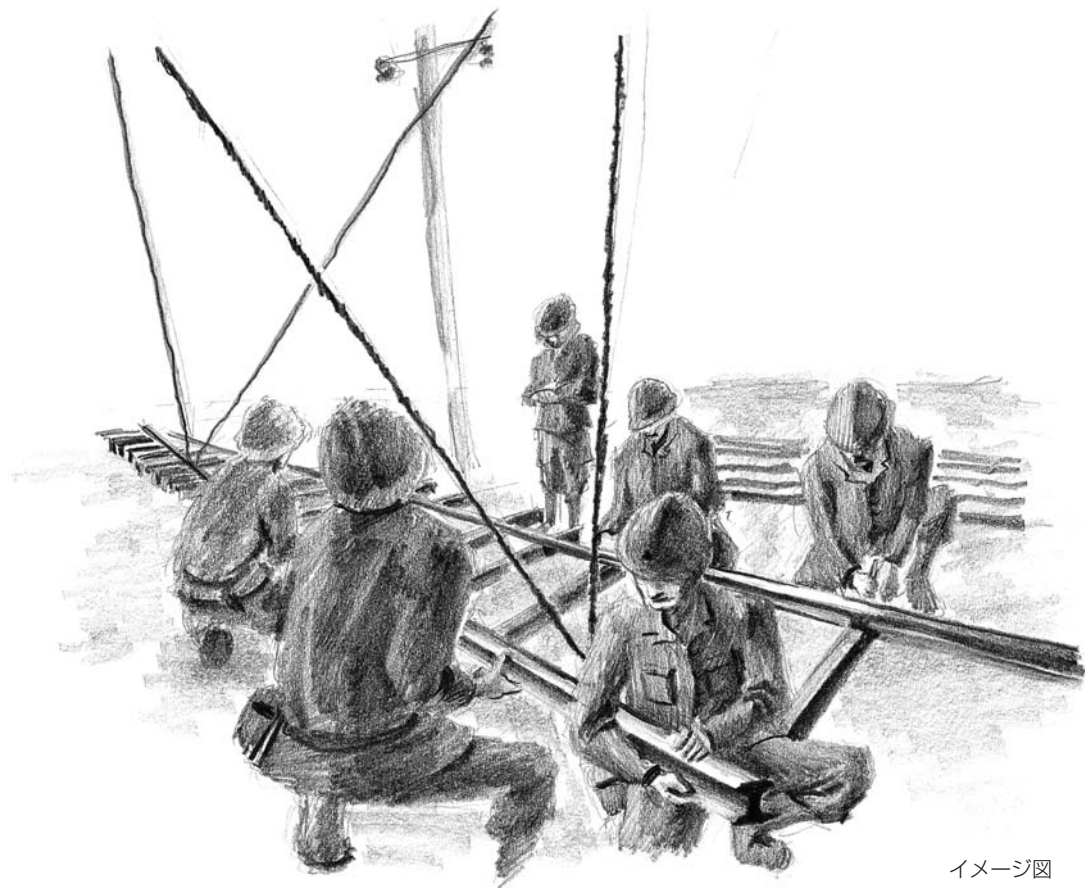
満州における戦場でつらい思いをしたのは食べ物です。食事は、満足に時間どおりにはでき
ませんでした。必ず一時間か二時間遅れました。晩まで食べないこともありました。なぜかと
言うと、日本軍は、兵隊を先に出しておいて、食べ物や砲弾は後から送るといふ考えだったか
らです。着のみ着のまま弾と食料を持って、まず人は行くけれども、食べ物がないのです。
戦場は私たちの部隊だけではなく、何万人と次々が入ってきます。それなのに、食べ物があ
りません。ですから野積みになったジャガイモがあれば、盗んでしまうこともあるのです。食
べ物がないので、今度は、みんな考えて、馬に食べさせる豆かすをしめたものも食べました。
あれはおいしいのです。病気の馬に食べさせるコーリヤンを煮て食べたこともあります。この

ように、馬の食べ物まで食べてしまふような状態じょうたいでした。

忘れわすられないのは、豆腐とうふを食べられなかったことです。何千人に食べさせるとなったら何千丁も要いるからです。魚を食べたことは一回もありません。肉は豚肉ぶたにくの塩漬しおづけを一切れ、それ以降いこう、食べたことはありません。それから、ライスカレーは具がないのです。とろっとルーだけなのです。このように食べ物たべものはひどかつたのでした。

しかし、私わたくしたちはそれは仕方がない、それしかないと思い、これが一番いいものだと思おもって食べました。そして、一生懸命いっしょうけんめい寒いところで訓練くんれんもしました。

正月は白飯しろいが三日間出でました。最初さいしょそれをみんな夢中むちゆうになつて



イメージ図

○麦飯 麦だけ、または米に麦をまぜて炊いたためし。

○白飯 白米で炊いた飯。

○餓鬼 生前の悪行のため、いつも飢えと渴きに苦しみ、死んでも成仏できず、さまよっている魂。

食べました。しかし、麦飯のほうが消化がよく、白飯というのはあまり消化が良くなかったのです。体調をくずす兵隊もいました。そこで、忘れられないことなのですが、三日間出ましたけれども、しまいにご飯があまり残飯となり、捨てるということが始まったのです。

日本から十何万人も戦場へ行ったのですから、やはり食べ物については大変だったのです。だから兵隊は、いつも腹をすかして、腹をすかして、何か食べ物がなにか、何かないか、何かないかとそればかり考えていました。そうなるほどんな教育をほどこしてもだめです。兵隊たちは兵隊ではなく、軍服を着ているというだけの餓鬼のようになってしまいました。ですから、保管している食べ物を盗むことになります。



イメージ図

いつも腹をすかしていた兵隊

今、あなたたちの食べているものは、昔の兵隊が食べていたものより、くらべようがないくらいはるかによいのです。昔の兵隊だったら、あなたたちの学校で出ている給食なら飛びついて食べます。たちまちなくなります。それほど、あなたたちはよいものを食べているのです。
私は、三年間中国にいました。

どうして戦争が起きるのか、それは難しい問題です。結局は、国同士の欲張りよくばでしょう。戦争で命を落とす以外の方法で決着をつけることはできると思うのですけれども、何で命を犠牲にするのか。それは、歴史や戦争の本をよく見て、しっかり勉強して、そして、みなさん自身でよく考えてください。

最後にみなさんに伝えておきたいことは二つです。まず、絶対に戦争ぜったいをなくさなければいけないということ、そして、もう少し愛国心を持っていたらいいということです。よその国の人だれも日本の国を守れないのです。日本は日本人しか守れないのです。そこを考えていただきたいと私は思います。絶対に戦争は避けなければだめです。

DATA

平成20年度豊平区平和事業

聴き取り

・平成20年8月23日

・つきさっぶ郷土資料館



.....
武田一郎(たけだ・いちろう)さん

・大正3年(1914年)生まれ

・札幌市豊平区在住